

1 趣 旨	都市化や核家族化、地域のつながりの希薄化等を背景として、家庭教育を支える環境が大きく変化する中、社会全体での家庭教育支援の必要性が高まっている。そこで、地域における家庭教育支援の取組を広げるため、家庭教育支援に関する理論や技法について研修を実施し、地域において主体的に家庭教育支援活動を実践する人材の育成を目指す。
2 対象者	管内家庭教育支援チーム、管内幼稚園・保育所関係者、PTA関係者 各市町社会教育・子育て支援課・福祉課行政担当職員 等 (94名)
3 期 日	平成30年1月15日(月)
4 場 所	南筑後教育事務所 第I研修室
5 内 容	<p>【講話】「子どもの夜ふかし 脳への脅威 ～眠育のススメ～」 熊本大学名誉教授・熊本県玉名地域保健医療センター顧問 兵庫県立子どもの睡眠と発達医療センター参与 三池 輝久</p> <p>【説明】「熊本県の家庭教育支援の取組について」 熊本県教育庁教育総務局 社会教育課 家庭教育支援班 主幹 田原 里恵</p> <p>【協議】「くまもと『親の学び』プログラム」 家庭教育支援班 主幹 田原 里恵</p>

6 評 価

(1) アンケートから (アンケート回収 79名 未記入1名 未提出 16名)

評価項目		4	3	2	1	平均
講話	「子どもの夜ふかし脳への脅威」～眠育のススメ～	48	29	1	0	3.6
説明	「熊本県の家庭教育の取組について」は参考になりましたか。	46	30	2	0	3.6
演習	「くまもと『親の学び』プログラム」は参考になりましたか。	53	24	1	0	3.7

◆講話について

- 睡眠が大切だとは分かっていたが、研究されたうえでの講話は、納得することが多かった。
- 睡眠が発達(成長)にこれだけ大きな影響を与えるとは思っていなかった。幼児期の生活リズムを整えて体内時計の形成することがいかに大事かを学ぶことができた。
- 保護者にはもちろん、園の先生方、保健師さん等にも勉強してもらいたいと思った。
- 睡眠不足が成長に大きく関係し、発達障害にも影響されるかもしれないことを聞き、生活リズムと睡眠がとても大切なことに気づかされた。
- 睡眠障害が発達障害につながるということは一つの例であるとのことだったが、参考にならない。

◆説明について

- 熊本県の家庭教育の取組があまりにも進んでいることに驚いた。
- 保護者の意識が変わることで、子どもの生活や自立に大きく影響することが分かった。素晴らしい取組!
- 具体的な講話内容だったので、子育て支援・家庭教育支援の方策がみえてきた。

◆演習について

- グループ演習はとても楽しかった。このような演習だと、保護者は押し付けられたと思わないで楽しく家庭教育ができる。実践を通してワークショップのやり方、流れが具体的によく分かった。
- 各家庭の取組等や保護者の考え等、自分たちで話し合いながら「気づける」ことが大変よかった。
- 今後、実際にやってみたい。(保護者の懇談会、PTA家庭教育委員会、家庭教育支援チーム、講話 等)
- プログラム化されていることで、学びの質の保障につながると思った。

(2) 成果と課題

- 睡眠について眠育の第一人者の先生による講話は、科学的な根拠や様々な事例に基づいた内容であり、参加者に睡眠や、生活リズム(起きる時間、寝る時間を一定にする)の大切さについて理解を深めてもらうことができた。
- 全国で初めて県が家庭教育条例を制定し、「おやの学びプログラム」作成の時から携わってある主幹の説明は、特に行政関係者などにとって参考となったようである。
- 「くまもと『親の学び』プログラム」の演習を通して「気づき」の大切さ等を参加者に実感してもらえ、今後、それぞれの所属で家庭教育の一つの手法として参考にしてもらう機会となった。
- 熊本県の家庭教育支援の取組を通して保護者や子どもの変容(成果)についてももう少し詳しく聞くことができるとよかった。研修時間全体を考慮すると難しいが演習時間は、あと10分～15分ゆっくりできるとよかった。



【写真① 講話】



【写真② 説明】



【写真③ 演習】

